

〈2021年度 東京大学一般入試 出願要件〉

英語民間試験の成績提出を必須とせず

進路情報研究センター ライセンスアカデミー / 教材開発課 2018年10月

東京大学は9月25日に、2021年一般入試において、従来の出願要件に加え、次の(1)～(3)のうちいずれか1つの書類の提出を求めることを発表した。

- (1) 大学入試センターによって「大学入試英語提供システム」の参加要件を満たすと確認された民間の英語試験（以下、「認定試験」と言う。）の成績（ただし、CEFRの対照表でA2レベル以上に相当するもの）。
- (2) CEFRのA2レベル以上に相当する英語力があると認められることが明記されている調査書等、高等学校による証明書類。
- (3) 何らかの理由で上記(1)(2)のいずれも提出できない者は、その事情を明記した理由書。

※上記(1)～(3)のいずれかの提出がなければ出願は受理できませんが、受理された後は合否判定の資料としては用いません。

認定試験成績を必須としない事由として、公平・公正という観点からも実施の観点からも多くの課題が未解決のまま残されており、残念ながら受験生が安心して受けられる体制が整っているとは言えないことを挙げている。

また、東京大学では認定試験と並ぶもう一つの選択肢として、高等学校の調査書等（注）を活用することが有効であるとしている。当然のことながら、個々の受験生の英語力についていちばん正確に把握しているのは、高等学校の現場で日常的に指導にあたっている先生方だとし、その判断は、緊張を強いられる特殊状況で実施される限られた回数のテスト結果よりも、一般的に信頼度は高いとしている。調査書等に受験生の英語力に関する必要な情報が記載されていれば、認定試験を受検していなくても、出願資格を判断する材料としては十分であると判断している。この方法であれば、家庭の経済状況や居住地、あるいは何らかの障害等で不利益を被ることなく、東京大学への出願資格を証明することが可能になるとしている。

（注）調査書「等」とあるのは、これに代わる何らかの証明書類も可とする趣旨だが、詳細については早急に検討の上、2018年12月頃を目途に公表する予定。

◆国立大学協会の認定試験のガイドライン（2018年3月30日発表）

国立大学としては、新テストの枠組みにおける5教科7科目の位置づけとして認定試験を「一般選抜」の全受験生に課すとともに、平成35年度までは、センターの新テストにおいて実施される英語試験を併せて課すこととし、それらの結果を入学者選抜に活用する。

- ・利用できる検定は、認定試験すべてを対象。
- ・利用方法は、「出願資格」「加点」いずれか、または双方。
- ・「出願資格」で求めるレベルは、受験機会の確保に十分配慮。
- ・「加点」の具体的な点数は、CEFR表に基づいて各大学が設定。

◆ 〈参考〉CEFR表

CEFR	各 検 定 の ス コ ア									
	英 検			TEAP	TEAP CBT	IELTS	TOEFL iBT	TOEIC L&R/ TOEIC S&W	GTEC CBT	ケンブリッジ 英語検定
	(英検CSE)	各級のテストで CEFRの判定が可能な範囲								
C1	3299 2600	合格 2630→	3299 ↑ 1級	400 375	800	8.0 7.0	120 95	1990 1845	1400 1350	199 180
	B2	2599 2300		2599 ↑ 準1級		374 309	795 600	6.5 5.5	94 72	1840 1560
B1		2299 1950	合格 1980→	2299 ↑ 2級	308 225	595 420	5.0 4.0	71 42	1555 1150	1189 960
	A2	1949 1700		1949 ↑ 準2級	224 135	415 235			1145 625	959 690
A1		1699 1400	合格 1456→	1699 ↑ 3級					620 320	689 270

2018年3月26日大学入試センター発表資料を基に作成。今後更新がされる可能性もある。

- ※各検定のスコアは4技能のもの。
- ※英検の表中のスコアは、各級のテストでCEFRの判定が可能な範囲。【例】2級は2299~1728の範囲でCEFR B1かA2を判定。
- ※GTECのCBT以外(中高生向けGTEC)と、ケンブリッジ英語検定の個々のテストは、利用できる大学が少ないため割愛(下グラフ参照)。
- ※CBT、iBTは、4技能すべてをコンピュータで行うテスト(TEAP CBT、GTEC CBT、TOEFL iBT)。
- ※TOEICのスコアはS&W(話す、書く)のスコアを2.5倍にして、L&R(聞く、読む)と合計したもの。

◆ 今後の動向

今回発表の東京大学の認定試験の取り扱いは、ある程度強制力を持つ国立大学協会のガイドラインに沿っていない。しかし、その事由が的を得たものだけに各国立大学・公立大学(国立大学に準じると推測)に大きな影響を与えるだろう。加えて、求めるレベルが下から2番目のA2だけにインパクトが大きい。特に、受験生集めに苦心している地方大学の認定試験の取り扱いに大きな影響を与えるだろう。